

# 宝塚市水道ビジョン2035が始まります!

市民のみなさまの生活基盤を支える重要な社会インフラとしての役割を果たすため、  
これからの10年間に取り組むべき事業と、その目標を定めます。



- 新技術や資産管理を活用した効率的・効果的な老朽化対策に取り組みます。

管の材質	使用年数
ダクタイル鉄管	103年
普通鉄管	送水管：61年 配水管等：76年
鋼管(ステンレス管)	173年
塩化ビニール管	送水管：62年(使用なし) 配水管等：71年
コンクリート管	87年

老朽化のため、更新します!

本編22ページ

水質や施設を適切に維持管理します。

有機フッ素化合物(PFOS・PFOA)の低減対策に取り組みます。

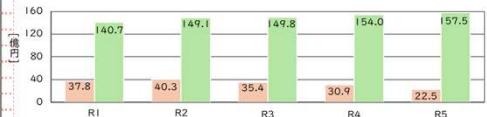
各系統での2025年6月の測定結果例 [ng/L]			
惣川 浄水場	小浜 浄水場	阪神水道 企業団	兵庫県営 水道
5未満	30	5未満	5未満

※国の基準値は50ng/L  
国の基準値の半分以下(25ng/L)が目標です!

本編27ページ

持続可能な経営にするため、料金体系などを検討し、料金回収率の向上に取り組みます。

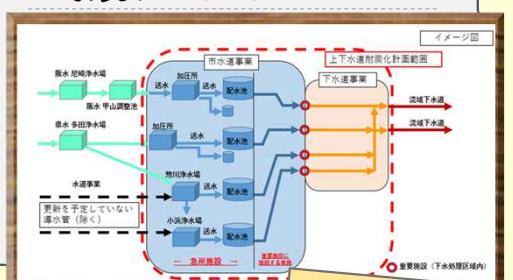
企業債の抑制に取り組みます。



本編44ページ

令和6年能登半島地震をきっかけに  
上下水道一体での耐震化に取り組みます。

本編24ページ



## 安全・強靭

~老朽化による事故や地震災害から市民のくらしを守り、安全な水道水を安定して届ける~



## 効率・再編

~効率的かつ効果的な水道システムを再構築する~

## 安全で持続可能な「宝」の水道を未来へ

### 安定 経営

~経営基盤を強化し、効率化・合理化を推進する~



### 連携・協働

~広報活動の充実により市民との協働を推進し、官民・広域連携を強化する~



宝塚市水道ビジョン2035を支える基本理念と4つのキーワード!

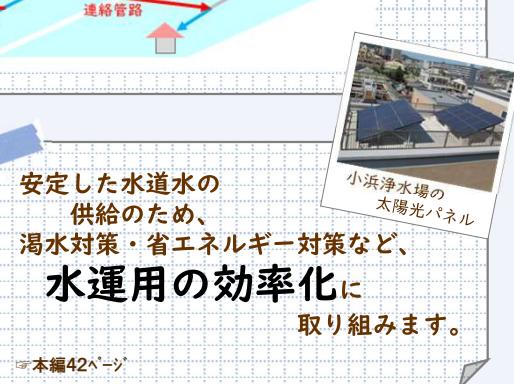
安定した水道水の供給のため、渇水対策・省エネルギー対策など、水運用の効率化に取り組みます。



市ホームページや広報誌の内容を充実させ、効果的な広報を目指します。

災害に備え、応急給水拠点の拡充や給水訓練に取り組みます。

官民・下水道・近隣自治体との連携を目指します。



# 宝塚市の水道

## 宝塚市の水源

宝塚市の水道事業は、昭和27年(1952年)に宝塚町(旧小浜村)で通水を開始し、平成2年(1990年)より兵庫県営水道、平成29年(2017年)より阪神水道企業団から受水しています。

図のように、ダム水や井戸水による自己水以外にも複数の水源を確保することは、渇水対策にもつながり、安定した水道水の供給を実現できます。

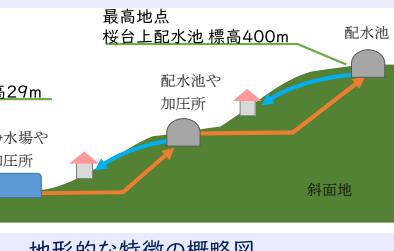
## 地形的な特徴

本市では、高度成長期に南部市街地の斜面地に住宅が広がったため、平地にある浄水場から住宅地へ向けて加圧送水を行う施設(加圧所)や、高地に水を貯めるための配水池が各所に必要となりました。

さらに、山麓部や北部地域に水道施設や管路を整備してきたこともあり、近隣自治体に比べ水道施設が多く、施設の維持管理や老朽化に伴う更新等にかかる費用が大きくなってしまう傾向があります。



宝塚市は地形の影響で、高低差が多く、加圧送水するための施設が多いのが特徴です。



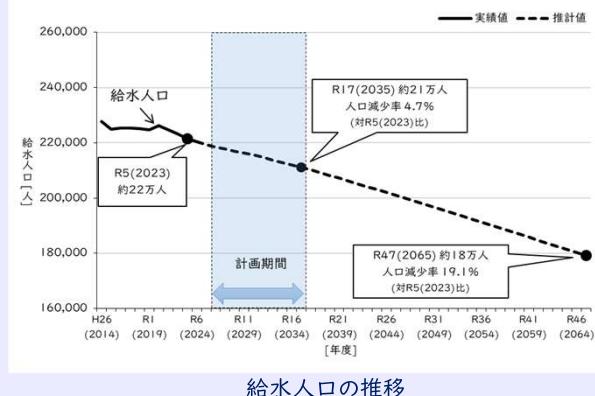
地形的な特徴の概略図

## 【有収水量と給水収益】

給水人口は緩やかに減少し、令和5年度(2023年度)と比べ、10年後には約5%、40年後には約19%減少すると見込まれます。有収水量(水の使用量)も減少傾向が続き、令和47年度(2065年度)には約21%減少すると予測されています。

給水収益は44年ぶりに料金改定したこともあり一時的に増加するものの、令和47年度(2065年度)には約19%(約8億円)減少する見込みです。

## 宝塚市水道事業の現状と基本課題

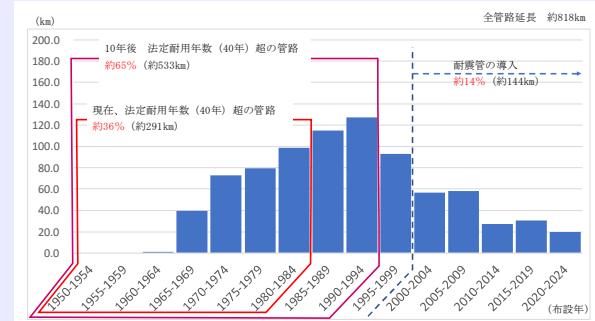


## 【水道施設の老朽化・耐震化対策】

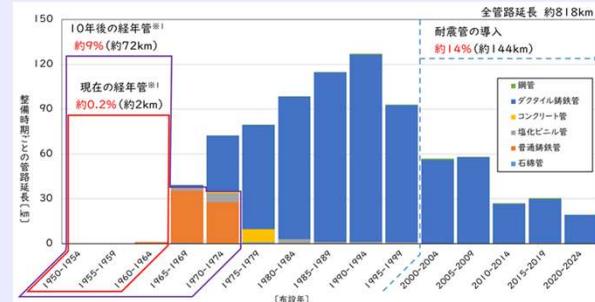
市内2つの浄水場は耐震対策が施され法定耐用年数を超過していませんが、老朽化や水質に影響を与える新たなリスク要因など、将来の在り方を検討する必要があります。配水池、加圧所は10年後に過半数が法定耐用年数を超える見込みであり、施設の統廃合などによる投資額を抑えた更新が必要です。

管路は、法定耐用年数を超える管路が10年後には約65%に増加する見込みです。そのため、AIなど新技術を活用して管の材質ごとの使用年数を見直し、計画的かつ効率的な経年管の更新を行う必要があります。

※グラフデータは令和5年(2023年)時点



法定耐用年数による管路の整備時期



管路(経年管)の整備時期

## Point!

- ・自然災害や施設の老朽化など水道事業を取り巻く環境の変化を踏まえて、変化に応じて新たに取り組むべきことと、今後も変わらず取り組み続けるべきことを改めて整理しました。
- ・人口減少等による収益の減少が見込まれる一方、施設の更新や耐震化に多くの費用が発生することから、多様な課題に対応するための方針として、「宝塚市水道ビジョン2035」を策定します。